

## 令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月31日

協議会名: 佐野市地域公共交通協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
ジェイアールバス関東(株)	コミュニティバス「さーのって号」 犬伏線 系統:佐野駅～佐野新都市バスターミナル (下り9.7km 上り10.3km) 運行回数:平日5回/日 土休日5回/日 運賃:310円(均一運賃)	周辺環境や行動特性の変化等に対応されたいという評価結果を受け、利用者特性に応じたダイヤ改正を行ったほか、小・中・高校生の利用促進を図るため、長期休暇中のワンコイン乗車制度を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A ・1日あたりの利用者数 【目標】40人→【実績】62.8人 ・収支率 【目標】20.0%→【実績】30.1%  新型コロナウイルスの影響で減少した需要が回復したことが利用者数の増加につながったものと考えられる。	医療機関や大型商業施設へ向かう高齢者の利用が多いことを念頭に、運行状況や利用者のニーズ等を的確に把握し、運行効率や利便性の高い運行ダイヤを検討する。
ジェイアールバス関東(株)	コミュニティバス「さーのって号」 運動公園循環線 系統:佐野駅～運動公園～佐野駅 (循環15.5km) 運行回数:平日9回/日 土休日7回/日 運賃:310円(均一運賃) ※車両減価償却費補助活用(ノンステップバス1両)	周辺環境や行動特性の変化等に対応されたいという評価結果を受け、利用者特性に応じたダイヤ改正を行ったほか、小・中・高校生の利用促進を図るため、長期休暇中のワンコイン乗車制度を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A ・1日あたりの利用者数 【目標】80人→【実績】93.4人 ・収支率 【目標】20.0%→【実績】34.0%  通学利用の増加、新型コロナウイルスの影響で減少した需要が回復したことが利用者数の増加につながったものと考えられる。	通学目的の学生の利用が多いことを念頭に、運行状況や利用者のニーズ等を的確に把握し、運行効率や利便性の高い運行ダイヤを検討する。また、引き続き新規利用者獲得を目指す。
ジェイアールバス関東(株)	コミュニティバス「さーのって号」 田沼葛生線 系統:佐野駅～葛生駅南バス回転場 (下り17.8km 上り17.7km) 運行回数:平日8回/日 土休日7回/日 運賃:310円(均一運賃)	周辺環境や行動特性の変化等に対応されたいという評価結果を受け、利用者特性に応じたダイヤ改正を行ったほか、小・中・高校生の利用促進を図るため、長期休暇中のワンコイン乗車制度を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B ・1日あたりの利用者数 【目標】80人→【実績】93.6人 ・収支率 【目標】20.0%→【実績】16.5%  新型コロナウイルスの影響で減少した需要が回復したことが利用者数の増加につながったものと考えられる。	市内中心部と中山間地域を結び、医療機関へ向かう高齢者の利用が比較的多いことを念頭に、運行状況や利用者のニーズ等を的確に把握し、運行効率や利便性の高い運行ダイヤを検討する。

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
佐野交通(株)	コミュニティバス「さーのって号」 デマンド交通 葛生エリア 営業区域: 葛生地区 運行日: 月曜～土曜(1/1～1/3は運休) 運行時間帯: 7時～17時 運賃: 310円(均一運賃)	周辺環境や行動特性の変化等に対応されたいという評価結果を受け、利用者ニーズに応じて乗降箇所を追加したほか、小・中・高校生の利用促進を図るため、長期休暇中のワンコイン乗車制度を実施した。また、バスの乗り方教室を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	C ・一日あたりの利用者数 【目標】25人→【実績】23.0人 ・収支率 【目標】10.0%→【実績】8.1% デマンド交通の周知不足等で目標値を下回ったと考えられる。	乗合率の向上や利用者数増加を目指し、引き続き積極的にバスの乗り方教室やイベント等でデマンド交通を周知する。
佐野合同自動車(株)	コミュニティバス「さーのって号」 デマンド交通 田沼エリア 営業区域: 田沼地区 運行日: 月曜～土曜(1/1～1/3は運休) 運行時間帯: 7時～18時 運賃: 310円(均一運賃)	周辺環境や行動特性の変化等に対応されたいという評価結果を受け、利用者ニーズに応じて乗降箇所を追加したほか、小・中・高校生の利用促進を図るため、長期休暇中のワンコイン乗車制度を実施した。また、バスの乗り方教室を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	C ・一日あたりの利用者数 【目標】30人→【実績】28.1人 ・収支率 【目標】10.0%→【実績】6.7% デマンド交通の周知不足等で目標値を下回ったと考えられる。	乗合率の向上や利用者数増加を目指し、引き続き積極的にバスの乗り方教室やイベント等でデマンド交通を周知する。
赤見タクシー(有)	コミュニティバス「さーのって号」 デマンド交通 赤見エリア 営業区域: 赤見地区 運行日: 月曜～土曜(1/1～1/3は運休) 運行時間帯: 10時～12時・13時～17時 運賃: 310円(均一運賃)	周辺環境や行動特性の変化等に対応されたいという評価結果を受け、利用者ニーズに応じて乗降箇所を追加したほか、小・中・高校生の利用促進を図るため、長期休暇中のワンコイン乗車制度を実施した。また、バスの乗り方教室を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	C ・一日あたりの利用者数 【目標】10人→【実績】4.9人 ・収支率 【目標】10.0%→【実績】3.0% デマンド交通の周知不足等で目標値を下回ったと考えられる。	乗合率の向上や利用者数増加を目指し、引き続き積極的にバスの乗り方教室やイベント等でデマンド交通を周知する。
旭タクシー(株)	コミュニティバス「さーのって号」 デマンド交通 佐野南部エリア 営業区域: 吾妻地区・植野地区の一部 運行日: 火曜・木曜・土曜(1/1～1/3は運休) 運行時間帯: 9時～12時・13時～17時 運賃: 310円(均一運賃)	周辺環境や行動特性の変化等に対応されたいという評価結果を受け、利用者ニーズに応じて乗降箇所を追加したほか、小・中・高校生の利用促進を図るため、長期休暇中のワンコイン乗車制度を実施した。また、バスの乗り方教室を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	C ・一日あたりの利用者数 【目標】5人→【実績】3.5人 ・収支率 【目標】10.0%→【実績】1.9% デマンド交通の周知不足等で目標値を下回ったと考えられる。	乗合率の向上や利用者数増加を目指し、引き続き積極的にバスの乗り方教室やイベント等でデマンド交通を周知する。

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	利用者特性に合わせたダイヤ改正や、ニーズに応じた乗降箇所追加などの取組は評価できるが、複数の系統でデマンド交通の一日あたりの利用者数の目標は未達成となった。しかし、大幅に目標値を上回った系統もあり、引き続き利便性向上の取組をされることを期待したい。第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を今後の検討の参考としていただきたい。 ・住民を巻き込み、自分事化するような仕組みを検討していただきたい。
-------------------------	--

## 令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

資料1-2

協議会名: 宇都宮市地域公共交通会議

令和 6年 1月19日

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
泉タクシー(株)	区域運行:国本地区(全域) 運行日:月曜～土曜 運行時間帯:8時便～18時便 運賃:300円 (小学生:150円,未就学児:無料)	・高齢者外出支援事業の回数券販売促進においては、更新時の利用登録申請書を送る際に、利用者の興味が湧くような色使いや理解しやすい表現を使った案内書を送付するとともに、地域行事に合わせて配布するなど、積極的なPR活動を実施した。 ・令和5年4月から地域連携ICカード「totra」の車内販売を実施し、普及及び利用の定着を図った。 ・コロナ禍においても、交通事業者と連携しながら、車内消毒を徹底するなど、利用者の不安の払拭を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 【目標】 ・1回あたりの平均乗車人数2.0人に対し、2.5人であった。 【効果】 ・医療機関や商業施設など幅広く利用されている。また、路線バス停留所への接続利用も見られ、広域的な移動需要にも対応している。 ・買物、通院だけでなく、高齢者の生きがいがづくりや健康づくりにも寄与している。	・引き続き、PR活動に積極的に取り組むとともに、今後、高齢者となる世代にも対応した利用促進策を検討していく。 ・既存の乗り継ぎポイントに加えて、地域内交通が路線バスとより快適に乗り継げるよう、新たな乗り継ぎポイントを目的施設に追加することで、更なる乗り継ぎ利便性の向上を図っていく。 ・令和4年9月に導入した「地域内交通の交通ICカードシステム」の更なる利用の拡大が図られるよう、利用者への周知を図っていく。 ・デジタル技術を活用した予約配車システムの導入により、「待ち時間の見える化」や、「24時間受付」、運行の効率化など、享受できるサービスがあることから、引き続き、地域運営組織と連携しながら、伴走型のWEBアプリ登録支援説明会を実施するなど、利用促進を図っていく。
泉タクシー(株)	区域運行:篠井地区(全域) 運行日:月曜～土曜 運行時間帯:8時便～18時便 運賃:300円 (小学生:150円,未就学児:無料)	・運転免許証返納者に対する回数券の配布を行うなど利用促進策を実施した。 ・令和5年4月から地域連携ICカード「totra」の車内販売を実施し、普及及び利用の定着を図った。 ・コロナ禍においても、交通事業者と連携しながら、車内消毒を徹底するなど、利用者の不安の払拭を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 【目標】 ・1回あたりの平均乗車人数2.0人に対し、1.4人であった。 ・後期高齢化率20.32%に対し、自治会加入世帯に占める登録世帯数の割合は、25.31%であった。 【効果】 ・医療機関や商業施設など幅広く利用されている。また、路線バス停留所への接続利用も見られ、広域的な移動需要にも対応している。 ・買物、通院だけでなく、高齢者の生きがいがづくりや健康づくりにも寄与している。	・利用登録率・後期高齢化率がともに高い地区であり、固定の利用者による通院利用が中心となっているため、高齢単身世帯をターゲットとした利用促進などに取り組んでいく。 ・既存の乗り継ぎポイントに加えて、地域内交通が路線バスとより快適に乗り継げるよう、新たな乗り継ぎポイントを目的施設に追加することで、更なる乗り継ぎ利便性の向上を図っていく。 ・令和4年9月に導入した「地域内交通の交通ICカードシステム」の更なる利用の拡大が図られるよう、利用者への周知を図っていく。 ・デジタル技術を活用した予約配車システムの導入により、「待ち時間の見える化」や、「24時間受付」、運行の効率化など、享受できるサービスがあることから、引き続き、地域運営組織と連携しながら、伴走型のWEBアプリ登録支援説明会を実施するなど、利用促進を図っていく。
泉タクシー(株)	区域運行:富屋地区(全域) 運行日:月曜～土曜 運行時間帯:8時便～18時便 運賃:300円 (小学生:150円,未就学児:無料)	・既存公共交通との適切な役割分担を考慮しながら、目的施設を追加するなど地域ニーズを運行計画へ反映し、利便性の向上を図った。 ・利用促進チラシを作成し、自治会回覧で配布するなど、利用促進策を実施した。 ・令和5年4月から地域連携ICカード「totra」の車内販売を実施し、普及及び利用の定着を図った。 ・コロナ禍においても、交通事業者と連携しながら、車内消毒を徹底するなど、利用者の不安の払拭を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 【目標】 ・1回あたりの平均乗車人数2.0人に対し、2.0人であった。 【効果】 ・医療機関や商業施設など幅広く利用されている。また、路線バス停留所への接続利用も見られ、広域的な移動需要にも対応している。 ・買物、通院だけでなく、高齢者の生きがいがづくりや健康づくりにも寄与している。	・高い登録率を維持していることから、実利用者が少ない自治会をターゲットとした周知や利用促進に取り組むなど新たな利用者の拡大を図っていく。 ・既存の乗り継ぎポイントに加えて、地域内交通が路線バスとより快適に乗り継げるよう、新たな乗り継ぎポイントを目的施設に追加することで、更なる乗り継ぎ利便性の向上を図っていく。 ・令和4年9月に導入した「地域内交通の交通ICカードシステム」の更なる利用の拡大が図られるよう、利用者への周知を図っていく。 ・デジタル技術を活用した予約配車システムの導入により、「待ち時間の見える化」や、「24時間受付」、運行の効率化など、享受できるサービスがあることから、引き続き、地域運営組織と連携しながら、伴走型のWEBアプリ登録支援説明会を実施するなど、利用促進を図っていく。

<p>泉タクシー(株)</p>	<p>区域運行:上河内地区(全域) 運行日:月曜～土曜 運行時間帯:8時便～17時便 運賃:300円 (小学生:150円,未就学児:無料)</p>	<p>・PR活動の実施や、年4回発行の地域広報誌にて特集ページを設けるなどの利用促進を図った。 ・梵天の湯と氏家駅の行き来に限らず地域外の方も利用可とする取組により、運行効率を維持しながら、利用者数の獲得を目指した。 ・令和5年4月から地域連携ICカード「totra」の車内販売を実施し、普及及び利用の定着を図った。 ・コロナ禍においても、交通事業者と連携しながら、車内消毒を徹底するなど、利用者の不安の払拭を図った。</p>	<p>A</p> <p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>C</p> <p>【目標】 ・1回あたりの平均乗車人数2.0人に対し、1.6人であった。 ・後期高齢化14.31%に対し、自治会加入世帯に占める登録世帯数の割合は、12.59%であった。</p> <p>【効果】 ・医療機関や商業施設など幅広く利用されている。また、路線バス停留所への接続利用も見られ、広域的な移動需要にも対応している。 ・買物、通院だけでなく、高齢者の生きがいづくりや健康づくりにも寄与している。</p>	<p>・目的施設にバス停留所の追加を推進してきていることから、公共交通の乗り継ぎについて、「乗継割引制度」や「上限運賃制度」と合わせた周知に取り組むことで、利用者数の獲得を図っていく。 ・既存の乗り継ぎポイントに加えて、地域内交通が路線バスとより快適に乗り継げるよう、新たな乗り継ぎポイントを目的施設に追加することで、更なる乗り継ぎ利便性の向上を図っていく。 ・令和4年9月に導入した「地域内交通の交通ICカードシステム」の更なる利用の拡大が図られるよう、利用者への周知を図っていく。 ・デジタル技術を活用した予約配車システムの導入により、「待ち時間の見える化」や、「24時間受付」、運行の効率化など、享受できるサービスがあることから、引き続き、地域運営組織と連携しながら、伴走型のWEBアプリ登録支援説明会を実施するなど、利用促進を図っていく。 ・自治会加入世帯数に対して、若年層の利用登録が少ないことから、若年層をターゲットにしたPR活動を実施することに加え、引き続き、高齢者の利用登録推進に向けたPR活動を継続して行うことで、新たな利用登録世帯や実利用者の獲得を図っていく。</p>
<p>泉タクシー(株)</p>	<p>区域運行:平石地区(全域) 運行日:月曜～土曜 運行時間帯:8時便～18時便 運賃:300円 (小学生:150円,未就学児:無料)</p>	<p>・既存公共交通との適切な役割分担を考慮しながら、目的施設を追加するなど地域ニーズを運行計画へ反映し、利便性の向上を図った。 ・LRTの開業にあわせて、地域内交通の利用や乗継割引制度について地域広報紙を地区内に配布するなど、理解促進を図った。 ・令和5年4月から地域連携ICカード「totra」の車内販売を実施し、普及及び利用の定着を図った。 ・令和5年4月に予約配車システムを導入したことにより、1回あたりの平均乗車人数が前年度に比べて0.2人増加するなど、配車台数の抑制に一定の効果を得られた。 ・コロナ禍においても、交通事業者と連携しながら、車内消毒を徹底するなど、利用者の不安の払拭を図った。</p>	<p>A</p> <p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>A</p> <p>【目標】 ・1回あたりの平均乗車人数2.0人に対し、2.0人であった。</p> <p>【効果】 ・公共施設や医療機関など幅広く利用されている。また、鉄道駅やLRT停留場等への接続利用も見られ、広域的な移動需要にも対応している。 ・買物、通院だけでなく、高齢者の生きがいづくりや健康づくりにも寄与している。</p>	<p>・引き続き、PR活動に積極的に取り組むことで、利用登録の拡大を目指すとともに、実際の利用につながるよう、利用促進策を検討していく。 ・既存公共交通との適切な役割分担のもと、地域ニーズの運行計画への反映や、LRTや路線バスとの接続強化などに取り組むことで、更なる利便性向上を図っていく。 ・令和4年9月に導入した「地域内交通の交通ICカードシステム」の更なる利用の拡大が図られるよう、利用者への周知を図っていく。 ・デジタル技術を活用した予約配車システムの導入により、「待ち時間の見える化」や、「24時間受付」、運行の効率化など、享受できるサービスがあることから、引き続き、地域運営組織と連携しながら、伴走型のWEBアプリ登録支援説明会を実施するなど、利用促進を図っていく。</p>
<p>泉タクシー(株)</p>	<p>区域運行:石井地区(一部) 運行日:月曜～土曜 運行時間帯:9時便～17時便 運賃:300円 (小学生:150円,未就学児:無料)</p>	<p>・既存公共交通との適切な役割分担を考慮しながら、目的施設を追加するなど地域ニーズを運行計画へ反映し、利便性の向上を図った。 ・LRTの開業にあわせて、LRT停留場を目的施設に追加し、地域広報紙で地区内に周知するなど、理解促進を図った。 ・地域のイベントにおいて、地域内交通のブース出展やクイズ大会などを実施し、地域内交通の周知を図った。 ・令和5年4月から地域連携ICカード「totra」の車内販売を実施し、普及及び利用の定着を図った。 ・コロナ禍においても、交通事業者と連携しながら、車内消毒を徹底するなど、利用者の不安の払拭を図った。</p>	<p>A</p> <p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>C</p> <p>【目標】 ・1回あたりの平均乗車人数2.0人に対し、1.4人であった。 ・後期高齢化率18.14%に対し、自治会加入世帯に占める登録世帯数の割合は、17.34%であった。</p> <p>【効果】 ・公共施設や医療機関など幅広く利用されている。また、鉄道駅やLRT停留場等への接続利用も見られ、広域的な移動需要にも対応している。 ・買物、通院だけでなく、高齢者の生きがいづくりや健康づくりにも寄与している。</p>	<p>・新規の利用登録が見られるとともに、利用者数も増加しているが、乗車率が未だ低いことから、新たな利用者の掘り起こしに努めるとともに、利用の定着につながるよう利用促進策を検討する。 ・既存公共交通との適切な役割分担のもと、地域ニーズの運行計画への反映や、LRTや路線バスとの接続強化などに取り組むことで、更なる利便性向上を図っていく。 ・令和4年9月に導入した「地域内交通の交通ICカードシステム」の更なる利用の拡大が図られるよう、利用者への周知を図っていく。 ・デジタル技術を活用した予約配車システムの導入により、「待ち時間の見える化」や、「24時間受付」、運行の効率化など、享受できるサービスがあることから、引き続き、地域運営組織と連携しながら、伴走型のWEBアプリ登録支援説明会を実施するなど、利用促進を図っていく。 ・目的施設にバス停留所やLRT停留場の追加を推進してきていることから、公共交通の乗り継ぎについて、「乗継割引制度」や「上限運賃制度」と合わせた周知に取り組むことで、利用者数の獲得を図っていく。 ・自治会加入世帯数に対して、若年層の利用登録が少ないことから、若年層をターゲットにしたPR活動を実施することに加え、引き続き、高齢者の利用登録推進に向けたPR活動を継続して行うことで、新たな利用登録世帯や実利用者の獲得を図っていく。</p>

アサヒタクシー(株)	<p>区域運行:横川地区(全域)          運行日:月曜～土曜          運行時間帯:8時便～17時便          運賃:300円          (小学生:150円,未就学児:無料)</p>	<p>・既存公共交通との適切な役割分担を考慮しながら、目的施設を追加するなど地域ニーズを運行計画へ反映し、利便性の向上を図った。          ・地域のイベントにおいて、地域内交通のブースを出展し、自治会未加入世帯も含めた利用者の拡大に向けたPR活動を実施したほか、ポイントカードの地域独自の利用促進策を実施するなど、利用促進を図った。          ・令和5年4月から地域連携ICカード「totra」の車内販売を実施し、普及及び利用の定着を図った。          ・コロナ禍においても、交通事業者と連携しながら、車内消毒を徹底するなど、利用者の不安の払拭を図った。</p>	A	A	<p>【目標】          ・1回あたりの平均乗車人数2.0人に対し、2.3人であった。</p> <p>【効果】          ・医療機関や商業施設など幅広く利用されている。また、路線バス停留所への接続利用もみられ、広域的な移動需要にも対応している。          ・買物、通院だけでなく、高齢者の生きがいがづくりや健康づくりにも寄与している。</p>	<p>・既存の乗り継ぎポイントに加えて、地域内交通が路線バスとより快適に乗り継げるよう、新たな乗り継ぎポイントを目的施設に追加することで、更なる乗り継ぎ利便性の向上を図っていく。          ・令和4年9月に導入した「地域内交通の交通ICカードシステム」の更なる利用の拡大が図られるよう、利用者への周知を図っていく。          ・デジタル技術を活用した予約配車システムの導入により、「待ち時間の見える化」や、「24時間受付」など、享受できるサービスがあることから、引き続き、地域運営組織と連携しながら、伴走型のWEBアプリ登録支援説明会を実施するなど、利用促進を図っていく。</p>
アサヒタクシー(株)	<p>区域運行:河内地区(全域)          運行日:月曜～土曜          運行時間帯:8時便～18時便          運賃:300円          (小学生:150円,未就学児:無料)</p>	<p>・利用登録の際は、高齢者等交通弱者に地区市民センターまでお越しただかなくても、単位自会長を窓口として登録できるルールを定着させるため、「利用登録申請マニュアル」や「地域内交通Q&amp;Aチラシ」を作成し、自治会長会議や自治会回覧を活用した配布を行うなど、周知啓発を図った。          ・令和5年4月から地域連携ICカード「totra」の車内販売を実施し、普及及び利用の定着を図った。          ・コロナ禍においても、交通事業者と連携しながら、車内消毒を徹底するなど、利用者の不安の払拭を図った。</p>	A	A	<p>【目標】          ・1回あたりの平均乗車人数2.0人に対し、2.4人であった。</p> <p>【効果】          ・医療機関や商業施設など幅広く利用されている。また、鉄道駅や路線バス停留所への接続利用もみられ、広域的な移動需要にも対応している。          ・買物、通院だけでなく、高齢者の生きがいがづくりや健康づくりにも寄与している。</p>	<p>・既存の乗り継ぎポイントに加えて、地域内交通が路線バスとより快適に乗り継げるよう、新たな乗り継ぎポイントを目的施設に追加することで、更なる乗り継ぎ利便性の向上を図っていく。          ・令和4年9月に導入した「地域内交通の交通ICカードシステム」の更なる利用の拡大が図られるよう、利用者への周知を図っていく。          ・デジタル技術を活用した予約配車システムの導入により、「待ち時間の見える化」や、「24時間受付」、運行の効率化など、享受できるサービスがあることから、引き続き、地域運営組織と連携しながら、伴走型のWEBアプリ登録支援説明会を実施するなど、利用促進を図っていく。</p>
アサヒタクシー(株)	<p>区域運行:豊郷地区(全域)          運行日:月曜～土曜          運行時間帯:8時便～17時便          運賃:300円          (小学生:150円,未就学児:無料)</p>	<p>・既存公共交通との適切な役割分担を考慮しながら、目的施設を追加するなど地域ニーズを運行計画へ反映し、利便性の向上を図った。          ・PR活動の実施や地域行事日に合わせて運行を行うなど利用促進を図った。          ・特に、運転免許証返納者に対する回数券の配布を行うなど利用促進策を実施した。          ・令和5年4月から地域連携ICカード「totra」の車内販売を実施し、普及及び利用の定着を図った。          ・コロナ禍においても、交通事業者と連携しながら、車内消毒を徹底するなど、利用者の不安の払拭を図った。</p>	A	A	<p>【目標】          ・1回あたりの平均乗車人数2.0人に対し、2.3人であった。</p> <p>【効果】          ・医療機関や商業施設など幅広く利用されている。また、路線バス停留所への接続利用も見られ、広域的な移動需要にも対応している。          ・買物、通院だけでなく、高齢者の生きがいがづくりや健康づくりにも寄与している。</p>	<p>・引き続き、PR活動に積極的に取り組むとともに、今後、高齢者となる世代にも対応した利用促進策を検討していく。          ・既存の乗り継ぎポイントに加えて、地域内交通が路線バスとより快適に乗り継げるよう、新たな乗り継ぎポイントを目的施設に追加することで、更なる乗り継ぎ利便性の向上を図っていく。          ・令和4年9月に導入した「地域内交通の交通ICカードシステム」の更なる利用の拡大が図られるよう、利用者への周知を図っていく。          ・デジタル技術を活用した予約配車システムの導入により、「待ち時間の見える化」や、「24時間受付」、運行の効率化など、享受できるサービスがあることから、引き続き、地域運営組織と連携しながら、伴走型のWEBアプリ登録支援説明会を実施するなど、利用促進を図っていく。</p>
アサヒタクシー(株)	<p>区域運行:清原南部地区(全域)          運行日:月曜～土曜          運行時間帯:8時～17時          運賃:300円          (小学生:150円,未就学児:無料)</p>	<p>・既存公共交通との適切な役割分担を考慮しながら、目的施設を追加するなど地域ニーズを運行計画へ反映し、利便性の向上を図った。          ・LRTの開業にあわせて、LRT停留場を目的施設に追加し、地域広報紙で地区内に周知するなど、理解促進を図った。          ・令和5年4月から地域連携ICカード「totra」の車内販売を実施し、普及及び利用の定着を図った。          ・コロナ禍においても、交通事業者と連携しながら、車内消毒を徹底するなど、利用者の不安の払拭を図った。</p>	A	A	<p>【目標】          ・1回あたりの平均乗車人数2.0人に対し、2.2人であった。</p> <p>【効果】          ・公共施設や医療機関など幅広く利用されている。また、鉄道駅やLRT停留場等への接続利用も見られ、広域的な移動需要にも対応している。          ・買物、通院だけでなく、高齢者の生きがいがづくりや健康づくりにも寄与している。</p>	<p>・引き続き、PR活動に積極的に取り組むことで、利用登録の拡大を目指すとともに、実際の利用につながるよう、利用促進策を検討していく。          ・既存の乗り継ぎポイントに加えて、地域内交通が路線バスやLRTなどより快適に乗り継げるよう、新たな乗り継ぎポイントを目的施設に追加することで、更なる乗り継ぎ利便性の向上を図っていく。          ・令和4年9月に導入した「地域内交通の交通ICカードシステム」の更なる利用の拡大が図られるよう、利用者への周知を図っていく。          ・予約配車システムの利用の定着や効率的な運行を行うことで、更なる利便性の向上を図っていく。</p>

(有)雀タクシー	<p>区域運行:雀宮地区(一部)          運行日:月曜～土曜          運行時間帯:8時便～17時便          運賃:300円          (小学生:150円,未就学児:無料)</p>	<p>・既存公共交通との適切な役割分担を考慮しながら、目的施設を追加するなど地域ニーズを運行計画へ反映し、利便性の向上を図った。          ・特に、未導入自治会の広報誌に地域内交通の紹介ページを盛り込むことで導入自治会の増加を図った。          ・令和5年4月から地域連携ICカード「totra」の車内販売を実施し、普及及び利用の定着を図った。          ・コロナ禍においても、交通事業者と連携しながら、車内消毒を徹底するなど、利用者の不安の払拭を図った。</p>	A		<p>【目標】          ・1回あたりの平均乗車人数2.0人に対し、2.6人であった。</p> <p>【効果】          ・医療機関や商業施設など幅広く利用されている。また、鉄道駅や路線バス停留所への接続利用も見られ、広域的な移動需要にも対応している。</p>	<p>・順次、導入自治会が追加されており、今後も引き続き、導入自治会の拡大を進めていくとともに、積極的なPR活動の実施など利用者の拡大に繋がる利用促進を図っていく。          ・既存の乗り継ぎポイントに加えて、地域内交通が路線バスとより快適に乗り継げるよう、新たな乗り継ぎポイントを目的施設に追加することで、更なる乗り継ぎ利便性の向上を図っていく。          ・令和4年9月に導入した「地域内交通の交通ICカードシステム」の更なる利用の拡大が図られるよう、利用者への周知を図っていく。          ・デジタル技術を活用した予約配車システムの導入により、「待ち時間の見える化」や、「24時間受付」、運行の効率化など、享受できるサービスがあることから、引き続き、地域運営組織と連携しながら、伴走型のWEBアプリ登録支援説明会を実施するなど、利用促進を図っていく。</p>
矢野自動車(株)	<p>区域運行:姿川地区(全域)          運行日:月曜～土曜          運行時間帯:8時～17時          運賃:300円          (小学生:150円,未就学児:無料)</p>	<p>・既存公共交通との適切な役割分担を考慮しながら、目的施設を追加するなど地域ニーズを運行計画へ反映し、利便性の向上を図った。          ・PR活動の実施などの利用促進を図った。          ・特に、登録世帯に対する新規利用マニュアルの配布や、広報誌にカラー刷りのポスターを織り込むなど、利用者が見てわかりやすいPR活動を実施した。          ・令和5年4月から地域連携ICカード「totra」の車内販売を実施し、普及及び利用の定着を図った。          ・コロナ禍においても、交通事業者と連携しながら、車内消毒を徹底するなど、利用者の不安の払拭を図った。</p>	A		<p>【目標】          ・1回あたりの平均乗車人数2.0人に対し、1.9人であった。          ・後期高齢化率12.59%に対し、自治会加入世帯に占める登録世帯数の割合は、6.87%であった。</p> <p>【効果】          ・医療機関や商業施設など幅広く利用されている。また、鉄道駅や路線バス停留所への接続利用も見られ、広域的な移動需要にも対応している。          ・買物、通院だけでなく、高齢者の生きがいづくりや健康づくりにも寄与している。</p>	<p>・自治会加入世帯数に対して、若年層の利用登録が少ないことから、若年層をターゲットにしたPR活動を実施することに加え、引き続き、高齢者の利用登録推進に向けたPR活動を継続して行うことで、新たな利用登録世帯や実利用者の獲得を図っていく。          ・既存の乗り継ぎポイントに加えて、地域内交通が路線バスとより快適に乗り継げるよう、新たな乗り継ぎポイントを目的施設に追加することで、更なる乗り継ぎ利便性の向上を図っていく。          ・令和4年9月に導入した「地域内交通の交通ICカードシステム」の更なる利用の拡大が図られるよう、利用者への周知を図っていく。          ・デジタル技術を活用した予約配車システムの導入により、「待ち時間の見える化」や、「24時間受付」、運行の効率化など、享受できるサービスがあることから、引き続き、地域運営組織と連携しながら、伴走型のWEBアプリ登録支援説明会を実施するなど、利用促進を図っていく。          ・目的施設にバス停留所の追加を推進してきていることから、公共交通の乗り継ぎについて、「乗継割引制度」や「上限運賃制度」と合わせた周知に取り組むことで、利用者数の獲得を図っていく。</p>
地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	<p>地域内交通の利用や乗継割引制度の周知等に加え、地域連携ICカードの普及定着等による公共交通全体の利用促進に取り組んでおり、目標である平均乗車人数を多くの系統で達成している点を評価する。未達成の系統においても、引き続き利便性向上や利用促進の取組を行うことを期待する。第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を今後の検討の参考としていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住民を巻き込み、自分事化するような仕組みを検討していただきたい。</li> <li>・定量的な目標を示し、関係者と情報を共有しながら進めていただきたい。</li> </ul>					

## 令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月26日

協議会名: 鹿沼市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
鹿沼合同タクシー	栗野地域 平成24年4月から、栗野地区、 粕尾地区、永野地区、清洲地 区の各デマンドを一本化 運行回数 10,230回/年 運賃 100円～800円	新規利用者獲得のため、バス の乗り方教室の実施をおこなっ た。	A 計画どおりに事業は適切に 実施された。	B 目標 12.6人/日 令和元年度 12.2人/日・台 令和 2年度 9.6人/日・台 令和 3年度 8.9人/日・台 令和 4年度 10人/日・台 令和 5年度 9.3人/日・台	・事業は計画通りに実施し、利 用者も増加したが、目標に達し なかった。 ・夜間の利用も含めて、運行時 間の検討が必要。
鹿沼合同タクシー	北押原・南押原 北犬飼地域 運行開始:平成22年11月 運行回数 4,144回/年 運賃 100円～600円	課題を抱えた利用者に向け、 地域包括ケアと連携し、高齢者 の移動手段の確保を実施し た。	A 計画どおりに事業は適切に 実施された。	B 目標 16.6人/日 令和元年度 15.1人/日・台 令和 2年度 11.6人/日・台 令和 3年度 12.1人/日・台 令和 4年度 12.76人/日・台 令和 5年度 12.9人/日・台	・事業は計画通りに実施し、利 用者も増加したが、目標に達し なかった。 ・効率的な運行及び利便性向 上のため、運行範囲や目的地 の再検討が必要。
鹿沼合同タクシー	松原地区 運行開始:平成23年11月 運行回数 2516回/年 運賃100円～400円	路線バスとの乗り継ぎなどを、 利用状況をみながら運行した。	A 計画どおりに事業は適切に 実施された。	B 目標 13.5人/日 令和元年度 12.0人/日・台 令和 2年度 9.4人/日・台 令和 3年度 6.2人/日・台 令和 4年度 7.5人/日・台 令和 5年度 8.2人/日・台	・事業は計画通りに実施し、利 用者も増加したが目標に達し なかった。 ・路線バスとの連携を強化し、 効率的な運行を検討が必要。
ヘイタク	板荷・菊沢地区 運行開始:平成22年11月 運行回数 2,072回/年 運賃100円～600円	課題を抱えた利用者に向け、 地域包括ケアと連携し、高齢者 の移動手段の確保を実施し た。	A 計画どおりに事業は適切に 実施された。	B 目標 18.7人/日 令和元年度 22.4人/日・台 令和 2年度 18.7人/日・台 令和 3年度 17.1人/日・台 令和 4年度 15.24人/日・台 令和 5年度 13.2人/日・台	・事業は計画通りに実施した が、地区内の人口減少も進み 利用者が減少し、目標に達しな かった。 ・運行範囲が広いいため、利便性 向上のために、地区ごとの運 行時間の設定に係る検討が必

地方運輸局等における  
二次評価結果  
(関東運輸局)

地域包括ケアとの連携や、乗り方教室の実施などによる利用促進の取組は評価できるが、利用者数の目標は未達成となった。  
第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を今後の検討の参考としていただきたい。  
・住民を巻き込み、自分事化するような仕組みを検討していただきたい。  
・定量的な目標を示し、関係者と情報を共有しながら進めていただきたい。

## 令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月9日

協議会名: 足利市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
関東自動車株式会社	<p>足利市生活路線バス名草線</p> <p>系統①入名草～東武足利市駅(13.5km)運行回数:1回/日            系統②入名草～足利赤十字病院(19.9km)運行回数:1.5回/日            系統③やすらぎハウス～足利赤十字病院(11.5km)運行回数:0.5回/日            系統④入名草～アピタ(15.1km)運行回数:1回/日</p> <p>運賃            大人(中学生以上):210円            小人(小学生):100円            幼児:無料            身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳提示の方:100円            いきいきパスポート提示の方:100円</p>	<p>「地域」と「事業者」と「行政」の三者で役割分担を行い、地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みを構築すること、アフターコロナ、ウィズコロナを見据え、利用促進に関するイベント等を再開するため、行政からバックアップを行うよう指摘があった。</p> <p>令和5年8月に策定した足利市地域公共交通計画において、三者の役割を明確に示し、PDCAサイクルに基づいた協議を深めることで地域が主体的に関与する仕組みを構築するため、公共交通会議で具体的な議論を開始した。</p>	<p>A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>A 事業が計画に位置づけられた目標を達成した。</p> <p>・1便あたりの平均利用者数            目標 5.1人以上            (前年度(R3.10.1～R4.9.30)実績 4.8人)            実績 5.6人</p> <p>・収支率            目標 前年比100%以上            (前年度実績 10.5%)            実績 11.7%</p>	<p>令和5年8月に策定した地域公共交通計画に基づき、更なる利用促進に取り組むとともに、現在のサービス水準を維持しながらも、利便性や運行効率を考慮したダイヤを検討していく必要がある。</p>
地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	<p>地域公共交通計画に基づいた利用促進により、平均利用者数及び収支率の目標を達成されたことを評価する。</p> <p>第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を今後の検討の参考としていただきたい。</p> <p>・住民を巻き込み、自分事化するような仕組みを検討していただきたい。</p>				



## 資料 1

## 令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 6年 1月19日

協議会名: 栃木市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
千代田タクシー有限会社 栃木合同タクシー株式会社 有限会社大平タクシー 藤岡タクシー株式会社 有限会社都賀タクシー 株式会社新交通 岩舟タクシー株式会社 安全タクシー有限会社	デマンド型交通「蔵タク」 営業区域: 北部エリア・南部エ リア 運行日: 月曜～金曜(祝日・ 12/29～1/3を除く) 運行時間帯: 8時～16時 運賃: 400円	・アフターコロナ、ウィズコロナ を見据え、(一度中断された) 利用促進に関するイベント等を 再開(実施)できるよう、行政か らもバックアップすべきとの評 価結果を受け、各自治会やシ ニアクラブ等への出前講座を 積極的に実施し、蔵タクの利用 の呼びかけを行った。 ・「地域」と「事業者」と「行政」の 三者で役割分担を行い、地域 (住民・利用者)が主体的に関 与する仕組みを構築すべきと の評価結果を受け、コミュニ ティバスを中心に職員による添 乗調査を行い、利用者から公 共交通に関する意見の聞き取 りやアンケート調査を行った。	A 事業が計画に位置づけられ たとおり、適切に実施され た。	C 事業が計画に位置付けら れた目標を達成できなかった。 収支率 目標: 15.0% 実績: 12.0% 利用者数 目標: 200人/日 実績: 174.1人/日 (コロナ禍前R1: 253.4人/日) 分析: 蔵タクの利用目的の ほとんどが通院・買い物で あるが、新型コロナウイルス 感染症による行動制限の 生活習慣が、コロナ禍後も 続いていると推察されるた め、利用者数がコロナ禍前 に回復しないと考えられる。	・持続可能な公共交通のため には人口減少を見越して、限り ある資源をどのように分配する かという経営的視点が必要で ある。アフターコロナ時代に合 わせた、需給のバランスに注 視したい。 ・新型コロナウイルス感染症対 策として実施していた蔵タクの 乗車制限を令和5年4月1日に 解除したが、利用者数の回復 が見られない。引き続き出前講 座等を実施し、高齢者等への 周知を図るとともに、コロナ禍 で変化した利用状況を注視し ながら、コロナ禍前に設定した 目標の改訂を検討していきたい。
地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	出前講座の実施による利用促進を行った点は評価できる。 収支率及び利用者数は未達成のため、引き続き利便性向上や利用促進の取組を行うことを期待する。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を今後の検討の参考としていただきたい。 ・住民を巻き込み、自分事化するような仕組みを検討していただきたい。 ・定量的な目標を示し、関係者と情報を共有しながら進めていただきたい。				

## 令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月15日

協議会名: 真岡市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
事業者名 芳南交通(株) 潮田タクシー(株) (有)二宮タクシー	デマンドタクシー「いちごタクシー」 運行地域:真岡市全域 運行日:月曜日～金曜日 運行時間帯:9:00～17:00 運賃:300円(こども200円)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いちごタクシーの満車に対応するため、運行台数の増車をを行う。 ⇒令和4年10月より1台増車した。</li> <li>・新型コロナウイルス感染拡大の状況を見ながら、いちごタクシーの定員制限の解除について検討する。 ⇒新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことを受け、令和5年5月8日から乗客定員を4名に戻した。</li> <li>・利用者や交通事業者等と協働した事業である公共交通サポーター制度を引き続き実施し、安定した運行と公共交通への意識醸成を図る。 ⇒公共交通サポーター制度の周知を行い、個人18口、法人2口の協賛を得た。</li> </ul>	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	C <p>事業が計画に位置付けられた目標を達成できなかった。</p> <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①一日あたりの乗車人数 68.6人/日</li> <li>②収支率 9.2%</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①58.1人/日</li> <li>②5.2%</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予約が集中する時間帯に満車でのお断りが発生していることや、新型コロナウイルス感染症による外出控えから利用者が減少し、5類に移行してからもまだ利用者が戻ってきていないことが要因と考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いちごタクシーの予約アプリの登録支援を行うなど、普及促進を図る。</li> <li>・利用者や交通事業者等と協働した事業である公共交通サポーター制度を引き続き実施し、安定した運行と公共交通への意識醸成を図る。</li> </ul>
事業者名 大越観光バス(株)	コミュニティバス「いちごバス」 系統:真岡(市内循環線:24.3Km) 運行回数:18回/日 運賃:100円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SNSやケーブルテレビ、FMもおか、広報もおかを活用し広く市民へ周知するとともに、地域座談会、出前講座、学校での乗り方教室、小学生向け夏休み無料乗車キャンペーンを引き続き実施し、利用促進を図る。 ⇒SNS(Instagram)、いちごチャンネル(ケーブルテレビ)、FMもおか、広報もおかを活用し、公共交通についての周知を行った。また、令和5年1～3月の間に公共交通の座談会を65件行った。昨年に続き小学生を対象とした無料乗車キャンペーンを実施した。</li> </ul>	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A <p>事業が計画に位置付けられた目標を達成した。</p> <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①一日あたりの乗車人数 117.7人/日</li> <li>②収支率 10.7%</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①135.6人/日</li> <li>②11.1%</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症による外出控えから利用者が減少していたが、地域座談会により集中的に周知を行ったことから、5類移行して以降着実に利用者が戻ってきたため目標が達成できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域座談会、出前講座、学校での乗り方教室、小学生向け夏休み無料乗車キャンペーンを引き続き実施し、利用促進を図る。</li> <li>・いちごバスやいちごタクシーの使い方や乗継方法をまとめた公共交通ブックを作成、配布し、利用促進を図る。</li> </ul>
地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	満車に対応した増車や、サポーター制度及びSNS等を活用した周知により乗車人数及び収支率の目標を達成された系統があることを評価する。未達成であった系統もあるため、引き続き利便性向上や利用促進の取組を行うことを期待する。第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を今後の検討の参考としていただきたい。 ・住民を巻き込み、自分事化するような仕組みを検討していただきたい。				

令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年12月22日

協議会名: 大田原市地域公共交通会議  
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
山和タクシー有限会社	野崎・佐久山地域定路線	<p>【利用促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市営バス路線・時刻表を15,000部作成し、配布している。</li> <li>・市ホームページ・広報に情報を発信している。</li> <li>・時刻検索サイト「ナビタイム」「ジョルダン」へ情報提供し、利用者へ調べやすい環境を形成している。</li> </ul>	<p>○事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p> <p>【事業内容】</p> <p>公共交通空白地域においては、湯津上・黒羽地域区域運行が地域の移動手段として浸透している。</p> <p>また、公共交通不便地域においては、親園・野崎・佐久山地域区域運行が地域の移動手段として浸透しており、地域の移動手段の選択肢が増えた。</p>	C	<p>【利用者一人当たりの運行経費】</p> <p>目標値:1,885円/人                      実績値:2,437円/人</p> <p>達成状況:高校生の通学需要の減少があり、目標が達成できなかった。</p>
	親園・野崎・佐久山地域区域運行	<ul style="list-style-type: none"> <li>・路線バスとデマンド交通を乗り継ぐ利用者の運賃を減免する「乗継割引」を継続し実施している。</li> <li>・デマンド交通の利用料金において、大田原市営バス及び関東自動車路線バスの定期券、並びに市営バス回数券の適用を継続して実施している。</li> </ul>		A	<p>【利用者一人当たりの運行経費】</p> <p>親園・野崎・佐久山地域区域運行                      目標値:5,235円/人                      実績値:3,272円/人</p> <p>達成状況:デマンド交通利用体験買い物ツアーを開催し、利用者増が図れたことで、目標を達成できた。</p>
	湯津上・黒羽地域区域運行	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者が運転免許証を自主返納した際、無料で乗車できる「無料乗車証」を発行している。</li> <li>・地域の協議体会議に出席し、デマンド交通の周知を図っている。</li> </ul>		A	<p>【利用者一人当たりの運行経費】</p> <p>目標値:2,199円/人                      実績値:2,113円/人</p> <p>達成状況:学童利用者の安定的な利用及びデマンド交通利用体験買い物ツアーの開催もあり、目標を達成できた。</p>

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)

継続して利便性向上や利用促進に取り組んでおり、利用者一人当たりの運行経費の目標について、大幅に上回っている系統があることを評価する。第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を今後の検討の参考としていただきたい。

- ・住民を巻き込み、自分事化するような仕組みを検討していただきたい。
- ・定量的な目標を示し、関係者と情報を共有しながら進めていただきたい。

## 令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月29日

協議会名: 那須烏山市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
烏山合同タクシー(株)	デマンド交通南那須地区 運行区域は、南那須地区全域及び烏山地区の指定施設(市役所烏山庁舎、那須南病院、山あげ会館、烏山台病院、水道庁舎)	令和3年度に策定した那須烏山市地域公共交通計画施策「デマンド交通の運行適正化」に基づき、令和4年4月に導入したデマンド交通回数券販売の継続や、令和5年4月の栃木県議会議員選挙における回数券を活用した移動支援を実施する等、利用向上策を展開した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 計画どおり事業を実施したが、コロナ禍の影響により、自家用車等のパーソナルな移動手段が好まれたこと等の要因から、利用人数が思うように伸びず、目標の収支率への到達等は未達成であった。 加えて、利用者満足度の改善も達成できず、満足度アップに向けて更なる改善及び利用方法の周知が必要である。	●収支改善に向けた検討。 ●特定の便への利用集中を分散させる等利用満足度向上に向けた検討。 ●デマンド交通と福祉タクシー等の役割の明確化・交通弱者に対する公共交通全般の支援策の検討。 ●運転免許の自主返納者を増やすために、インセンティブ付与等を含めた呼び掛け方法の検討。 ●広域幹線軸である鉄道と、支線系統であるデマンド交通との結節強化に向けた検討。
(株)烏山観光タクシー 烏山合同タクシー(株)	デマンド交通烏山地区 運行区域は、烏山地区全域及び南那須地区の指定施設(市役所南那須庁舎、保健福祉センター、南那須図書館)	令和3年度に策定した那須烏山市地域公共交通計画施策「デマンド交通の運行適正化」に基づき、令和4年4月に導入したデマンド交通回数券販売の継続や、令和5年4月の栃木県議会議員選挙における回数券を活用した移動支援を実施する等、利用向上策を展開した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 計画どおり事業を実施したが、コロナ禍の影響により、自家用車等のパーソナルな移動手段が好まれたこと等の要因から、利用人数が思うように伸びず、目標の収支率への到達等は未達成であった。 加えて、利用者満足度の改善も達成できず、満足度アップに向けて更なる改善及び利用方法の周知が必要である。	●収支改善に向けた検討。 ●特定の便への利用集中を分散させる等利用満足度向上に向けた検討。 ●デマンド交通と福祉タクシー等の役割の明確化・交通弱者に対する公共交通全般の支援策の検討。 ●運転免許の自主返納者を増やすために、インセンティブ付与等を含めた呼び掛け方法の検討。 ●広域幹線軸である鉄道と、支線系統であるデマンド交通との結節強化に向けた検討。

地方運輸局等における  
二次評価結果  
(関東運輸局)

回数券の活用による利用促進などの取組は評価できるが、収益率や満足度の目標は未達成となった。第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を今後の検討の参考としていただきたい。

- ・住民を巻き込み、自分事化するような仕組みを検討していただきたい。
- ・定量的な目標を示し、関係者と情報を共有しながら進めていただきたい。

令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月25日

協議会名: さくら市地域公共交通会議  
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
さくらタクシー株式会社	コンタ号・つういんコンタ号 旧喜連川町の全域及び黒須病院(旧氏家町域)	・広報紙(9月)やHPで広報活動を行った。 また、令和5年8月には公共交通マップをリニューアルし、鉄道駅や公共施設など、市内各施設に配架し、利用促進を図った。 ・地域公共交通計画策定に併せて、より利用しやすいデマンド交通のあり方を事業者とともに検討している。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	【目標】 ○コンタ号 ・1人1回当たりの利用に対する公費負担額を1,000円以下 ・収支率17%以上 ・サービスに対する満足度: 75%以上 ○つういんコンタ号 ・1人1回当たりの利用に対する公費負担額を2,100円以下 ・収支率を16%以上 ・サービスに対する満足度: 75%以上 【結果】 ○コンタ号 ・1人1回当たりの利用に対する公費負担額: 1,391.70円 ・収支率12.82% ・サービスに対する満足度: 44.4% ○つういんコンタ号 ・1人1回当たりの利用に対する公費負担額: 3,229.06円 ・収支率8.96% ・サービスに対する満足度: 49.4% (アンケートは隔年実施。R4年度に実施したアンケート結果。) いずれの目標も達成することができなかった。 デマンド交通の特性を理解してもらったため、制度周知のほか、増便や増車の可能性を検討していく。	・広報紙・HP等による利用促進を更に強める。 ・サロン事業や地域の集會等へ参加し、デマンド交通やデマンド交通の使い方の周知を行う。 ・今後策定予定の地域公共交通計画を基に、市民の利便性向上に向け、デマンド交通も含めた地域の交通ツールと調整を図る。 ・利用者の要望に対し、対応が可能な項目を検討する。
有限会社誠タクシー	うのはな号 旧氏家町の全域	・広報紙(9月)やHPで広報活動を行った。 また、令和5年8月には公共交通マップをリニューアルし、鉄道駅や公共施設など、市内各施設に配架し、利用促進を図った。 ・地域公共交通計画策定に併せて、より利用しやすいデマンド交通のあり方を事業者とともに検討している。 ・利用者のニーズに合わせて、つういんコンタ号の運行時間を一部変更することを検討。令和6年10月から変更した運行時間で運行することとなった。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	【目標】 ・1人1回当たりの利用に対する公費負担額を1,500円以下 ・収支率13%以上 ・サービスに対する満足度: 60%以上。 【結果】 ・1人1回当たりの利用に対する公費負担額: 1,887.77円 ・収支率10.36% ・サービスに対する満足度: 36.7% (アンケートは隔年実施。R4年度に実施したアンケート結果。) いずれも目標を達成できなかった。 デマンド交通の特性を理解してもらったため、制度周知のほか、増便や増車の可能性を検討していく。	・広報紙・HP等による利用促進を更に強める。 ・サロン事業や地域の集會等へ参加し、デマンド交通やデマンド交通の使い方の周知を行う。 ・今後策定予定の地域公共交通計画を基に、市民の利便性向上に向け、デマンド交通も含めた地域の交通ツールと調整を図る。 ・利用者の要望に対し、対応が可能な項目を検討する。
地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	広報活動に取り組み、また、公共交通マップのリニューアルによる利用促進を図った点は評価できるが、いずれの目標も達成できていないため、第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を今後の検討の参考としていただきたい。 ・住民を巻き込み、自分事化するような仕組みを検討していただきたい。				

令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 6年 1月26日

協議会名: 小山市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
大山タクシー 有限会社	城東中久喜線 系統: 小山駅東口～高専正門 距離: 往路6.5km 復路6.7km 運行回数: 平日14回/日 土休日13回/日 運賃: 大人200円	<p>事業者と自治体との間で対話しながら、路線の再編やダイヤ、運行方法の見直しの議論を行い、周辺環境や行動特性の変化などに対応するようご助言をいただいたことから、小山市地域公共交通計画策定の際に、各路線の課題を示し、それに対する改正内容を議論した。</p> <p>「地域」と「事業者」と「行政」の三者で役割分担を行い、地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みを構築していくようご助言をいただいたことから、小山市地域公共交通計画に明記し、三者で利用促進のための取り組みを行った。</p>	A	<p>事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p> <p>事業が計画に位置付けられた目標を達成した。 1日当たりの利用者数 目標: 216人 実績: 218.3人 分析: 沿線に所在する高校に利用促進のパンフレットを配布したところ、通学定期券発売枚数が増加(R3:110枚、R4:126枚)したことから、通学利用者が増えたものと考えられる。</p>	<p>利用者のさらなる増加に向けて、沿線の学校、商業施設、企業、自治会等に出向き、PRを行う。</p>
大山タクシー 有限会社	大谷中央線 系統: 小山駅東口～大谷公民館 距離: 循環13.0km 運行回数: 全日13回/日 運賃: 大人200円		A	<p>事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p> <p>事業が計画に位置付けられた目標を達成した。 1日当たりの利用者数 目標: 168人 実績: 264.1人 分析: 宅地開発が進み沿線人口が増加しているため、利用者増加に繋がったものと考えられる。</p>	<p>利用者のさらなる増加に向けて、沿線の学校、商業施設、企業、自治会等に出向き、PRを行う。</p>
大山タクシー 有限会社	土塔平成通り線 系統: 小山駅東口～横倉公民館 距離: 往路6.9km 復路7.6km 運行回数: 全日13回/日 運賃: 大人200円		A	<p>事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p> <p>事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった。 1日当たりの利用者数 目標: 182人 実績: 178.6人 分析: 沿線に所在する学校に利用促進のパンフレットを配布したが、朝の通学時間帯においては、満員状態で運行しているため、利用が伸びなかったものと考えられる。</p>	<p>利用者のさらなる増加に向けて、沿線の学校、商業施設、企業、自治会等に出向き、PRを行う。</p>
株式会社 小山中央観光バス	間々田東西線 系統: 光南病院～間々田駅東口～新市民病院 他2系統 距離: 往路12.4km 復路12.4km 運行回数: 平日17.5回 土休日8回 運賃: 大人200円		A	<p>事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p> <p>事業が計画に位置付けられた目標を達成した。 1日当たりの利用者数 目標: 61人 実績: 65.9人 分析: 沿線に所在する高校に利用促進のパンフレットを配布したところ、通学定期券発売枚数が増加(R3:4枚、R4:12枚)したことから、通学利用者が増えたものと考えられる。</p>	<p>利用者のさらなる増加に向けて、沿線の学校、商業施設、企業、自治会等に出向き、PRを行う。</p>
大山タクシー 有限会社	デマンドバス桑・絹エリア 営業区域: 桑・絹地区 運行日: 月曜～金曜 運行時間帯: 8時～17時 運賃: 大人300円		A	<p>事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p> <p>事業が計画に位置付けられた目標を達成した。 1日当たりの運行便数 目標: 3.5便 実績: 4.5便 年間稼働率 目標: 44% 実績: 56.6% 分析: コロナ禍が明けいきいふれあい事業が再開されたことにより、センター利用の方が乗車したのと考えられる。</p>	<p>利用者のさらなる増加に向けて、沿線の学校、商業施設等に出向き、PRを行う。</p>
大山タクシー 有限会社	デマンドバス大谷中南部・間々田東部エリア 営業区域: 大谷中南部・間々田東部地区 運行日: 月曜～金曜 運行時間帯: 8時～17時 運賃: 大人300円		A	<p>事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p> <p>事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった。 1日当たりの運行便数 目標: 3.5便 実績: 3.3便 年間稼働率 目標: 44% 実績: 41.5% 分析: エリア内を運行する土塔平成通り線、大谷中央線等が増便等の利便性向上に伴い、転移したのと考えられる。</p>	<p>利用者のさらなる増加に向けて、沿線の学校、自治会等に出向き、PRを行う。</p>
大山タクシー 有限会社	デマンドバス寒川・生井エリア 営業区域: 寒川・生井地区 運行日: 月曜～金曜 運行時間帯: 8時～17時 運賃: 大人300円		A	<p>事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p> <p>事業が計画に位置付けられた目標を達成した。 1日当たりの運行便数 目標: 1.0便 実績: 1.3便 年間稼働率 目標: 18% 実績: 14.4% 分析: コロナ禍の影響により利用が伸び悩んだ。また、周知不足が影響したのと考えられる。</p>	<p>利用者のさらなる増加に向けて、沿線の学校、自治会等に出向き、PRを行う。</p>

【凡例】A: 目標の100%以上 B: 目標の85～100% C: 目標の85%未満

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	<p>利用促進のパンフレットを配布し、1日当たりの利用者数の目標が達成された事評価する。また、第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を今後の検討の参考としていただきたい。</p> <p>・住民を巻き込み、自分化するような仕組みを検討していただきたい。</p>
-------------------------	--

## 令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月19日

協議会名: 日光市地域公共交通会議  
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
日光線通運(株)	日光市デマンド交通 ・運行地域:小栗川地区 ・運行日:毎日 ・運行時間帯:7~19時 ・運賃:1回300円 ・車両及び台数:10人乗りワゴン車1台	8~9月を「デマンドバス利用促進月間」とし、利用料金300円のところ利用促進月間中(令和5年8月1日~9月30日)に限り100円とし、デマンドバスの利用促進を図った。 実施にあたっては、市広報紙、市ホームページ掲載のほか、自治会回覧による案内を行い周知活動を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 年間利用者数(R7までに) 目標:1,200人 実績:1,294人  事業が計画に位置づけられた目標を達成した。 医療機関や商業施設利用など生活を支える移動手段として利用されている。	デマンドバスの利用者増加に向けて、より効率的で利便性の高い運行形態を検討し利用促進及び満足度の向上を図る。 また、利用者の利便性向上を図るため、キャッシュレス決済の導入を実施するとともに、デマンド交通の認知度を市広報紙や市ホームページなどを活用し情報発信に取り組んでいく。
日光線通運(株)	日光市デマンド交通 ・運行地域:猪倉地区 ・運行日:毎日 ・運行時間帯:7~19時 ・運賃:1回300円 ・車両及び台数:10人乗りワゴン車1台	8~9月を「デマンドバス利用促進月間」とし、利用料金300円のところ利用促進月間中(令和5年8月1日~9月30日)に限り100円とし、デマンドバスの利用促進を図った。 実施にあたっては、市広報紙、市ホームページ掲載のほか、自治会回覧による案内を行い周知活動を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 年間利用者数(R7までに) 目標:1,800人 実績:1,348人  本年5月新型コロナウイルス感染症が5類に移行され外出制限などが緩和されたが、終息には至らないことにより、外出を控えたものと考えられる。 一方で、医療機関や商業施設利用など生活を支える移動手段として利用されている。	デマンドバスの利用者増加に向けて、より効率的で利便性の高い運行形態を検討し利用促進及び満足度の向上を図る。 また、利用者の利便性向上を図るため、キャッシュレス決済の導入を実施するとともに、デマンド交通の認知度を市広報紙や市ホームページなどを活用し情報発信に取り組んでいく。
日光線通運(株)	日光市デマンド交通 ・運行地域:落合地区 ・運行日:毎日 ・運行時間帯:7~19時 ・運賃:1回300円 ・車両及び台数:10人乗りワゴン車1台	8~9月を「デマンドバス利用促進月間」とし、利用料金300円のところ利用促進月間中(令和5年8月1日~9月30日)に限り100円とし、デマンドバスの利用促進を図った。 デマンド交通の更なる周知を図るため、地区自治会長会議において勉強会を開催し、利用の案内など啓発活動を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 年間利用者数(R7までに) 目標:700人 実績:439人  本年5月新型コロナウイルス感染症が5類に移行され外出制限などが緩和されたが、終息には至らないことにより、外出を控えたものと考えられる。 一方で、医療機関や商業施設利用など生活を支える移動手段として利用されている。	デマンドバスの利用者増加に向けて、より効率的で利便性の高い運行形態を検討し利用促進及び満足度の向上を図る。 また、利用者の利便性向上を図るため、キャッシュレス決済の導入を実施するとともに、デマンド交通の認知度を市広報紙や市ホームページなどを活用し情報発信に取り組んでいく。

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	自治会長会議における勉強会の開催や自治会回覧による案内など、利用促進や周知などの取組は評価できる。複数の地区で利用者数の目標は未達成となっていることから、引き続き利便性向上や利用促進の取組を行うことを期待する。第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を今後の検討の参考としていただきたい。 ・住民を巻き込み、自分事化するような仕組みを検討していただきたい。
-------------------------	---

## 令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年12月20日

協議会名: 下野市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
石橋タクシー(株)	デマンド交通「おでかけ号」 営業区域:下野市全域 運行日:月曜～土曜 運行時間帯:午前8時～午後6時 運賃:大人(中学生以上)300円・小学生200円・未就学児無料(ただし、保護者同伴を要する)	令和5年4月からは、要望があった車いす、シルバーカー、ベビーカーの持込を可能とし、利便性の向上を図った。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A 事業が計画に位置付けられた目標を達成した。 目標:デマンド交通の1日平均利用者数 63.7人 実績:64.8人 分析:運行エリアや運行形態の大幅な見直しなど効率的な運行手法の取り組みの効果によると考えられる。	「下野市地域公共交通計画」(令和3年3月策定)に基づきデマンド交通の運行形態を変更し、利用者数の増加など一定の成果が見られるが、毎年実施予定の利用者アンケート結果などから引き続き検証し、必要に応じ見直しを行うなど更なる利用環境の向上を図る。

地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	利用者の要望に添った利便性の向上に取り組まれており、平均利用者数の目標を達成されていることを評価する。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を今後の検討の参考としていただきたい。 ・住民を巻き込み、自分事化するような仕組みを検討していただきたい。 ・定量的な目標を示し、関係者と情報を共有しながら進めていただきたい。
---------------------------------	---



## 令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月25日

協議会名: 茂木町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
株)柏タクシー	茂木エリア	実利用者数の減少に伴い、前回の事業評価時において目標の20,000人に対し、実績が17,261人だったことから、利用実績の向上を目指し、年度目標として18,000人を設定した。	A 計画どおり事業は実施された。	C 【目標と実績】(目標年度: 令和8年度) ①運行サービスにおける利用者満足度90%以上に対し、87% ②めぐるくんの利用実績 22,000人に対し、16,667人 ③めぐるくんの収支率 18.0%に対し、11.9% ④公共交通(めぐるくん)に係る負担額28,000千円に対し、30,954千円  【目標を達成できなかった理由】 ①1便減便(アンケート結果から)が要因と考えられる。 ②③④新型コロナウイルス感染症拡大による外出自粛が大きな要因と思われる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の5類移行後に対応したお出かけ促進事業を検討していく。</li> <li>・75歳以上の運転免許自主返納者への割引制度等拡充及び広報の強化を行い、利用の多い年代である高齢者を車からめぐるくんへの利用転換を促し、新たな需要喚起するとともに、高齢者の安全、安心な生活づくりを図る。</li> <li>・平成30年4月より導入した回数券のPR強化や、目的施設追加のPRを引き続き行い、利用者の利便性の向上や需要増を図る。</li> </ul>

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	回数券のPRにより需要増を図るなどの取組は評価できるが、利用者数などの目標は未達成となった。いずれの指標も目標値には達しなかった。引き続き、引き続き利便性向上や利用促進の取組を行うことを期待する。第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を今後の検討の参考としていただきたい。 ・住民を巻き込み、自分事化するような仕組みを検討していただきたい。 ・定量的な目標を示し、関係者と情報を共有しながら進めていただきたい。
-------------------------	--

## 令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月15日

協議会名: 市貝町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
(株)柏タクシー	市貝町全域、芳賀町祖母井地区、芳賀町上延生ロマンの湯、茂木町茂木さとう耳鼻咽喉科クリニック、益子町芦沼青木医院、高根沢町上高根沢ふれあいセンター	前回の事業評価において、目標を達成できていない点があったと評価しており、利用実態を注視し、継続して利用者の利便性向上に努めた。	A 計画通り事業は適正に実施された	B 利用者数について、目標11,134人に対し、6,787人であった。前年度の状況からは、新型コロナウイルス感染症による影響から徐々に回復しているため増加が見られた。	高齢化による運転免許証自主返納者に本デマンドタクシーの回数券を交付する等、新規利用者の確保、利用頻度の向上に努める。

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	利便性向上に努めるなどの取組は評価できるが、利用者数の目標については未達成となった。第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を今後の検討の参考としていただきたい。 ・住民を巻き込み、自分事化するような仕組みを検討していただきたい。 ・定量的な目標を示し、関係者と情報を共有しながら進めていただきたい。
-------------------------	--

## 令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月30日

協議会名: 益子町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
七井タクシー	デマンド型交通「ひまわり号」 営業区域:七井地区 運行日:月曜～土曜 運行時間帯:8時～17時 運賃:300円	・芳賀赤十字病院への乗り入れについてご意見をいただき、真岡鐵道を利用し芳賀赤十字病院に通院する町民を支援できるようにした。 ・前回の「⑥事業の今後の改善点」のなかの高齢者単独世帯への周知や一般向けの周知については、上記を含め広報紙、ホームページおよび自治会回覧により利用者へ周知を行うことで利用者の増加を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 目標: ・利用者50人/日 ・登録者3,700人 実績: ・利用者48.7人/日 ・登録者3,835人	・高齢者や障害者の利用について、福祉・高齢者支援関係課と連携し、引き続き利用者のフォローアップを図る。また、町広報紙やホームページを通じて利用者の増加を図る。 ・商工会、予約センターおよびタクシー会社と情報交換を行いながら、継続して安定した事業運営をしていく。 ・前回の事業評価結果のなかで「運行エリア」についてのご意見があり、現在田野地区と七井地区間で乗り継ぎが必要であるが、両地区間で乗り換えなしで乗り入れが可能かどうか等を検討していきたい。
益子タクシー有限公司	デマンド型交通「ひまわり号」 営業区域:益子地区 運行日:月曜～土曜 運行時間帯:8時～17時 運賃:300円	・前回の「⑥事業の今後の改善点」のなかの高齢利用者のトラブル等について、利用者からの問合せに対して予約センターやタクシー会社と情報共有を行いながら、利用者のフォローアップを図り利用者を増やしていくよう取り組んだ。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 分析: 運行系統ごとの計画は立てておらず、全体として、目標である利用者50人/日に対して、実績が48.7人/日であった。平成24年10月の運行開始から11年を経過し、町民の方々にも認知いただけるようになった。新型コロナウイルスの影響を想定していたが、令和4年11月に1日の最大利用者数が87人を記録した反面、令和5年3月に1日の最低利用者数が14人という日もあったが、利用者登録数は3,835人(R5.9末)で今年度の目標を達成している。	
新光タクシー有限公司	デマンド型交通「ひまわり号」 営業区域:田野地区 運行日:月曜～土曜 運行時間帯:8時～17時 運賃:300円	・前回の「⑥事業の今後の改善点」のなかの継続して安定した事業運営をしていくことについて、商工会、予約センターおよびタクシー会社と意見交換を行い、また月に一度予約センターに訪れ情報共有を行うことにより、安定した事業運営に努めた。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B	

地方運輸局等における  
二次評価結果  
(関東運輸局)

広報紙、ホームページおよび自治会回覧による周知活動や、タクシー事業者と連携した利用者へのフォローアップなどの取組により、利用者登録数が目標を達成されたことを評価する。  
第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を今後の検討の参考としていただきたい。  
・住民を巻き込み、自分事化するような仕組みを検討していただきたい。

令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月26日

協議会名: 壬生町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
壬生タクシー(有)	事業名: 壬生町デマンドタクシーみぶまる運行事業 運行区域: 壬生町全域・ゆうがおパーク(下野市)	・公共交通計画に掲げた目標を達成できるよう事業実施に着手した。 ・運転免許の自主返納者へデマンドタクシーの利用券を支給し、交通弱者の移動手段の確保を行った。	A 事業は計画通り適切に実施された。	・目標①(登録者数): 達成 登録者数目標5,979人/年に対し、7,303人/年であった。 ・目標②(利用者数): 未達成 利用者数目標7,622人/年に対し、7,030人/年であった。 ・目標③(運転免許返納者数): 達成 返納者数目標96人/年に対し、97人/年であった。	1市2町の交通利用促進の一環として始めたデマンド申込のワンストップ手続きは今後も継続し、高齢者だけでなく幅広い世代に利用いただけるよう努める。 ただし、各市町で予約方法が異なるため、広域連携事業も利用者により便利なサービスと認識してもらえよう各市町と調整し改善等を検討する。  策定した公共交通計画の目標をそれぞれ達成できるよう、関係機関との連携を密に図り、利用しやすく、利便性の高い事業実施に努める。 また、デマンドタクシー事業の周知・案内の促進を引き続き行い、利用の促進に努める必要がある。
壬生観光自動車(有)	運行日: 月～金(土・日・祝日、年末年始運休) 運行時間: 8～16時 1時間/便 運行本数: 1日9便 運行本数: セダン型タクシー2台	・利便性の向上として、予約管理システムとドライバーとの連携が円滑に行えるように、タブレットを運行車両に実装し、リアルタイムで予約状況や運行状況等が反映され、問い合わせ等の対応も行いやすくなった。		B 目標①及び③は、それぞれ達成しており、目標①については、1市2町のデマンド相互利用申込の影響もあり登録者数が増加傾向になった。しかし、利用者数は目標値に届かず、昨年度の実績7,124人も下回り利用者が伸び悩む結果となった。年度当初は新型コロナウイルス感染拡大による影響も見受けられる。人の動きは以前より多くなっている印象ではあるが、利用者増加及び安定にはもう少し時間を要すると思われる。 また、利用者の年齢層も高齢者が多く、通院等でリピーターとして利用されていた方が、入院や施設入所、家族の送迎により利用しなくなっていることも考えられる。	
みどり交通(有)	運賃: 中学生以上300円、小学生100円、未就学児無料	・1市2町(下野市・上三川町・壬生町)のデマンド相互利用運行を継続し、1枚の申込用紙で各市町のデマンド申込を同時に行う制度を継続。これにより各市町それぞれの申込が不要となり、利用者にとって広域での利用がより身近になった。			

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局) 運行車両へのタブレット端末の設置や、他市町との連携による利用者利便の向上により、登録者数および運転免許返納者数の目標を達成されたことを評価する。利用者数の目標は未達成となったが、引き続き利便性向上や利用促進の取組を行うことを期待する。  
第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を今後の検討の参考としていただきたい。  
・住民を巻き込み、自分事化するような仕組みを検討していただきたい。

## 令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6(2024)年1月25日

協議会名: 上三川町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	
関東交通株式会社	<p>上三川町デマンド交通</p> <p>名称:「かみたん号」 営業区域: 町内全域 町外9施設</p> <p>運行日: 平日 運行時間帯: 8時から18時まで</p> <p>運賃: 大人町内300円 大人町外450円 小学生 150円 未就学児 無料</p>	<p>事業者と協力し、利用者のニーズに合った運行を検討されたいとの評価については、かみたん号の利用方法を具体的に示した冊子「上三川町おでかけコンシェルジュ」を地域生活課窓口を設置し、利用者のニーズに合う利用方法を提案した。今後、公共施設等の待合室などに設置する予定である。</p> <p>事業者と自治体との間で対話しながら運行方法を見直しの議論を行い、周辺環境や行動特性の変化などに対応されたいとの評価については、渋滞等に対応するため運行ルート等を見直すことで、断る件数を減らす等の対策を行った。</p> <p>また、「地域」と「事業者」と「行政」の三者で役割分担を行い、地域住民が主体的に関与する仕組みを構築されたいという評価については、前年に引き続き、若年者層と高齢者層を対象としたアンケートを実施し、新たなニーズの掘り起こしを行った。</p>	A	<p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>目標: 15,200人以上利用 実績: 16,129人</p> <p>目標: 収支率20.0%以上 実績: 18.0%</p> <p>分析: 利用者数は目標を達成することができたが、収支率は達成できなかった。利用者がコロナ禍で利用できなかった回数券を使って乗車しているため、回数券の売り上げが少なかったものと思われる。</p>	<p>・今後もアンケートを実施し、住民のニーズの把握に努め、必要に応じ見直すことで、利用者の評価の改善に繋げる。</p> <p>・町民にデマンド交通の特徴を理解してもらうため、利用方法等の周知を強化することで、収支率の向上を目指す。</p>

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	<p>利用方法を具体的に記載した冊子の設置や、運行ルートの見直し及び新たなニーズの掘り起こしを行い、利用者数の目標を達成されたことを評価する。</p> <p>第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を今後の検討の参考としていただきたい。</p> <p>・住民を巻き込み、自分事化するような仕組みを検討していただきたい。</p>
-------------------------	---

令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月24日

協議会名: 野木町公共交通活性化会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
<p>・小山合同タクシー(株) ・(有)野木タクシー</p>	<p>【デマンド交通「キラ輪号(愛称)】 運行区域:町内全域 運行日:月曜～金曜(土・日・祝日、8月13日～16日、年末年始運休) 運行時間帯:8時～17時 運行本数:17本(午前8本、午後9本) ※令和4年10月から 運行車両:セダン2台、ワゴン1台 運賃:利用券(大人[中学生以上]300円、小人[小学生以下]200円、75歳以上200円、3歳未満無料)</p>	<p>●前回の事業評価結果(事業者との対話、コロナ前への復帰)を踏まえ、以下を実施 ・地域公共交通計画策定に係る各種調査を実施した。(町民アンケート、企業アンケート、利用者・未利用者アンケート、事業者ヒアリング) ・上記調査結果より利用者・未利用者が感じたデマンドタクシーに対する不満点を改善するため、タクシー事業者及び業務委託先と打合せや意見交換を行い、要望のあった16時30分増便、友愛記念病院復路便、難聴者のための予約フォームの運用を開始した。 ・パンフレットを塾にも置くなど配架場所を増やした。 ・敬老事業や成人式におけるパンフレットの配布を行った。 ・町広報誌において、デマンド特集記事を組み、登録及び利用の促進を図った。 ・乗車時のマスク着用を自由とした。(空気清浄機の設置、乗務員の着用は継続)</p>	<p>A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>A ⑤目標・効果達成状況 ・目標数値である利用登録者数の3,002人に対して、本年度の利用登録者数は3,129人(令和5年9月末までの総数)と目標を達成出来た。 &lt;利用登録者の推移&gt; H21年度(※11月～実証(試行)運行当初):1,223人、H22～25年度:250人前後、H26年度:174人、H27年度:149人、H28年度:157人、H29年度:153人、H30年度:144人、R1年度:169人、R2年度:151人、R3年度:168人、R4年度:171人、R5年度:232人(※各年10月～翌年9月末の合計) ・目標数値である1日平均利用者数35.1人/日に対して、約41.5人/日(令和4年10月～令和5年9月末)であり、目標を達成出来た。 &lt;1日平均利用者の推移&gt; H21年度(※11月～実証(試行)運行当初):23.8人/日、H22年度:29.3人/日、H23年度:31.8人/日、H24年度:34.5人/日、H25年度:36.8人、H26年度:35.0人/日、H27年度:37.5人/日、H28年度:38.9人/日、H29年度:37.4人/日、H30年度:35.6人/日、R1年度:38.3人/日、R2年度:34.6人/日、R3年度:33.5人/日、R4年度:36.6人/日、R5年度:41.5人/日(※各年10月～翌年9月末の合計平均) ・65歳以上の利用者が全体の86.1%(総利用者9,989人に対し8,597人)であった。高齢者等の交通弱者対策のための「安全かつ安心に移動できる「地域の足」の確保」として事業目的を果たしていることが伺える。</p>	<p>・今後も、アンケート調査により、利用者のニーズ等を把握する。その結果を受け、声の大きい要望かつ効果の大きいものについてはその実現に向けて調整を行う。また登録及び利用の促進を図るため、広報による特集ページの掲載やパンフレット等による周知等を行う。 ・定量的な目標については、さらなるPRや利用者要望に寄り添ったデマンド交通になるように努め、また今年度策定する「地域公共交通計画」の中で町内の公共交通の再構築及びよりよいデマンド交通の運行について検討を行い、その効果を加味した目標値を設定するものとする。</p>
<p>地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)</p>	<p>調査結果に基づいた増便による利便性の向上や、パンフレットの配布等による利用促進に取り組み全ての目標を達成されている点を評価する。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を今後の検討の参考としていただきたい。 ・住民を巻き込み、自分事化するような仕組みを検討していただきたい。 ・定量的な目標を示し、関係者と情報を共有しながら進めていただきたい。</p>				

## 令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年12月18日

協議会名: 那須町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
那須合同自動車株式会社	北部運行区域 (黒田原行き)	前回の事業評価結果を受け、コロナ禍で利用促進が難しい状況下においても、「きっかけづくり」は継続的に実施する必要があるという観点から、小学生を対象としたバスの乗り方教室の開催を企画(9月に2校にて開催)した。	A	<p>計画どおり事業は適切に実施された。 長期的な利用促進に向け以下の取り組みを実施した。</p> <p>①「那須町バスブック」を全戸配布 ②小学生低学年を対象とした「バスの乗り方教室」を企画(9月に2校にて開催)</p>	<p>(1)年間利用者数8,100人の目標値に対して、本年度の年間利用者数は6,786人であり、目標を達成することができなかった。本年度は、国内における新型コロナウイルス感染症拡大の勢いは一時期よりは収まりつつあるものの、コロナ前の利用者数まで回復していない。ただし前年度(6,726人)よりは増加している。</p> <p>(2)収支率6%の目標値に対して、本年度は6.2%であり、目標を達成することができた。</p> <p>(3)利用者一人当たりの公的資金投入額4,700円/人の目標値に対して、本年度は4,064円/人であり、目標を達成することができた。</p>
	北部運行区域 (菅間記念病院行き)				
	北部運行区域 (広谷地行き)				
	南部運行区域 (黒田原行き)				
	南部運行区域 (菅間記念病院行き)				

地方運輸局等における  
二次評価結果  
(関東運輸局)

乗り方教室の開催や、バスブックの配布により利用促進を行い、収支率及び一人当たりの公的資金投入額の目標が達成されたことは評価出来るが、利用者数については未達成であった。引き続き利便性向上や利用促進の取組を行うことを期待する。  
第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を今後の検討の参考としていただきたい。  
・住民を巻き込み、自分事化するような仕組みを検討していただきたい。

## 令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月23日

協議会名: 塩谷町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
大新東株式会社	塩谷町デマンド交通「えかんべ号」 営業区域: 塩谷町全域及び一部の町外施設 運行日: 月曜～金曜(祝日、お盆、年末年始は除く) 運行時間帯: 8時～17時 運賃: 町内500円、町外800円(小学生、75歳以上高齢者、障害者 町内300円、町外400円・未就学児 無料)	「事業者と自治体との間で対話しながら、路線の再編やダイヤ、運行方法の見直しの議論を行い、周辺環境や行動特性の変化などに対応していただきたい。」という助言を受け、車内に意見箱を設置を行った。  「利用促進イベント等の実施を行政側でもバックアップしていただきたい」という助言受け、玉生小学校学5年を対象にした、まちづくりの出前講座の中で、公共交通の取組について紹介し、利用促進を行った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった。  指標①: 1日あたり平均利用人数 ・目標値: 25人/日 ・実績値: 26人/日  指標②利用促進に関する効果的な広報の実施 ・目標値: 3回 ・実績値: 2回  指標③啓発イベントの開催 ・目標値: 7回 ・実績値: 2回	利用人数は、ほぼ横ばい状況であり、意見箱への意見を参考に、今後の運行内容の改善を図っていききたい。 目標達成できなかった②③については、広報誌に限らず、小中学生への出前講座や、高齢者が集う催し等に併せて活動を展開していききたい。

地方運輸局等における  
二次評価結果  
(関東運輸局)

出前講座の実施により利用促進に取り組み、1日あたり平均利用人数が目標を達成されたことを評価する。引き続き意見箱への意見を参考に、利便性の高い運行となるよう期待したい。  
第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を今後の検討の参考としていただきたい。  
・住民を巻き込み、自分事化するような仕組みを検討していただきたい。



## 令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月25日

協議会名: 矢板市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
(有)矢板ツーリング	<p>矢板市デマンド交通</p> <p>営業区域: 矢板市内(コリーナ 矢板・玉田地区を除く)</p> <p>運行日: 月曜～土曜</p> <p>運行時間帯: 8時～17時</p> <p>運賃: 【大人(中学生以上)】 片道500円/往復800円 【小学生・高齢者(65歳以上)・障がい者】 片道300円/往復500円 【ともなりバス所持者】 片道200円/往復300円 【未就学児】 無料</p>	<p>利用者増加のため、認知度アップが必要であるとの評価結果を受け、職員による出前講座や、出張申請を実施した。</p>	<p>A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>B 事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった。</p> <p>目標: ・公共交通の利用者数(1日当たり)80人以上 ・広告等掲示申込件数10件/年以上</p> <p>実績: ・公共交通の利用者数(1日当たり)88.9人 ・広告等掲示申込件数5件/年</p> <p>分析: 利用者数については、利用者増加のための取組みを行った結果により、目標を達成できたと考えられる。広告等掲示申込件数については、増加はしたものの、目標値には届かなかった。</p>	<p>・公共交通の利用者数については、既に目標値を大幅に上回って達成できているが、引き続き、利用者増加のための取組みを実施していく。</p> <p>・広告等掲示申込件数については、景気動向等の外部要因による影響を大きく受けってしまう事項になるが、広報誌やホームページ等を活用して広く広告掲載を呼びかけていくことで需要喚起を図る。</p>
地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	<p>出前講座による利用促進により、利用者数が目標達成されたことを評価する。引き続き利便性向上や利用促進の取組を行うことを期待する。第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を今後の検討の参考としていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住民を巻き込み、自分事化するような仕組みを検討していただきたい。</li> <li>・定量的な目標を示し、関係者と情報を共有しながら進めていただきたい。</li> </ul>				